



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雑報. 地球 1928, 10(5): 384-392

ISSUE DATE:

1928-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183511>

RIGHT:

大阪平野の發達(一)(伏見義夫)

塞風山の火山學的位置(津田秀郎)

國際石油地理論(五)(田上政敏)

○陸の科學(辻村太郎) 小學生全集第六十海の科學、陸の科學 十月 興文社發行

○日本人口分布圖 田中啓爾 山本熊太郎共編 百萬分一 五葉 十月 古今書院 定價五枚揃七五錢

○世界地理風俗大系 第十四卷 イタリヤ・地中海 大類伸、小田内通敏、渡邊萬次郎、吉田彌邦、田中阿歌磨、田中

館秀三、岡伊能、山本信次郎、荒井陸男、佐藤弘執筆、

九月 東京新光社發行 定價二圓八十錢

○帝都近郊地理學習要錄 山本幸雄著 十月 古今書院 定價一圓

○日本農業地圖 十月 帝國農會刊行 豫約價一圓

## 雜報

### ○砂漠の成因に關する新研究

獨逸のハンス・モルテンシュタット(Hans. Mortensen)氏は南米智利の砂漠地を核心、中部、縁邊の三區域に分ちて踏査研究の結果、從來の砂漠生成に關する考説を否認し、新説を發表した。其は砂漠地の表面が、厚さ三、四吋の硬き灰黄色の塵埃を以て全然被覆せられ、風の侵蝕の武器と謂ふべき砂礫の存在し無い事實に基くので、(但し縁邊區域には多少あり)、塵埃層の下には厚き白

色鹽塵(Salt dust)(一部硫酸曹達から成る)があり、此塵埃表皮の成因に關しては、同氏も十分なる説明を爲し得ぬが、其場所に於て出來たものと信じて居る、即ち現に出來つつあるのを目撃したからである。多分少くも十年以上洪水が汎濫した事があると推定せらるるといふて居る。兎に角此塵埃の表皮は主として土壤に濕氣を有する時に出來たもので、濕氣は不時の降雨から來り、潮解性鹽塵に十分吸收せられたものが急劇に蒸發せられたに相違無い、同氏の考は是れ迄砂漠生成の因子として考へられた、氣溫・風速・濕度・雲量等を否認し去り、只降雨量の僅微と蒸發の強烈とを以て、砂漠生成の主因と認めむとするのである。(Geographical Jour. No.1. Vol. LXXII. 1923).

### ○薩南硫黃島、寶島、小寶島の地形

硫黃島、寶島、小寶島等は鹿兒島縣大島郡十島村に屬する。十島村に屬する島嶼は九州の南端と奄美大島との間に非布琉球弧の内側を形成する火山島列である。十島村には住民のある島が十一ある。即ち竹島・硫黃島・黒島・口之島・中之島・諏訪瀬島・惡石島・臥蛇島・平島・小寶島及寶島である。これ等の島嶼は百五十哩の間北東から南西に向つて列んでゐるが北方の三つの島なる竹島・硫黃島・及黒島は東西に一列をなして口三島と稱へられる。この三島の南に口永良部島があるが、之は屋久島に近いので上屋久村に屬する。口之島以下の七島(小寶島は寶島に合す)は土噶喇(トカラ)七島又は單に七島と呼ばれる、

就中之島は面積が廣く十島村役場がある。猶ほ寶島の南西に横當島(一名オガミ)があるがこゝは無人島である。十島村の總面積約七方里、人口三千七百を算する。この島々は貨物旅客の出入が稀であるのと寄港地が危険な爲めとで日本國中最も不便な土地であつて、明治四十年に到り初めて徴兵令の施行あり、汽船の寄航を見るに到つた。併し今日未だ小學校令は施行されず、一の公立小學校もなく、三千七百の人口、十一の島に對し僅かに一人の醫師あるに過ぎない。現時十島の航路には六百噸位の汽船一隻で月二回の往復をなす豫定ではあるが、風浪荒く碇泊危険な土地とて缺航する場合が多い特に黒島、臥蛇島、平島の三島は不便で小寶島には大正十四年五月以後昭和三年五月初めて汽船が寄航した。

硫黃島 は不規則な楕圓形をなし、其の長軸は東西を指す全島安山岩から成り、地形によつて明に東西の二部に分けることが出来る。其の境界は斷層だと想へる絶壁をなし屏風の如く東部に面して居る。この絶壁は島の長軸と斜に交り、西部の最高點矢筈嶽(千一百一十一呎)は絶壁の上にある。この高地は一方北東に延び漸次低くなつて平家の城で海に入る。他方の南西に向つた高地はハリマ塔に於て稍南東に轉じて海に終る。北方遙かに海を隔て、南陸の指宿から頼妹地方に連る指宿斷層はこの硫黃島の斷層の方向と一致する。西部の南西端は臺地を成し平家居住跡だとされ、城の原と呼び島民の耕作地として主要部を成して居る。境界線より東の部分は噴出の時期を異にする二座の火山から成り立つ。南西にあるのは稻

村岳で高さ八百尺内外、端麗な圓錐形をなせ、金山カンザン竹に被られ、噴火口の東面は破壊された形跡がある。南西の山腹に星ノグロと呼ぶ一の爆烈火口があり、之から流出した熔岩は俗稱平橋となり尙南西に流れて部落の北に迫る。尙一の爆烈火口が前者の南方にあつて之から流出した熔岩は港の東方に突出して磯待の鼻を成しハリマ塔と相對して好碇泊地を形成して居る。この熔岩から溫泉が流出してエラウナギが湧つて来る。稻村岳は有史以來一回も噴火した形跡はないが其の北東に聳ゆる硫黃岳は海拔二千三百十八呎のユニーデ式火山で今日も噴烟が絶えず硫氣の探刺が營まれて居る。併し噴火口は塞がり其の周圍から硫氣を噴出するのである。この兩火山の噴出物は元四方に裾野を作つて居たらしい。西方及北西方は前述の斷層の下に達して乾谷を作り雨季には多少水流がある。裾野の他の方面は海蝕により削り去られて居る民家は稻村岳の南西麓と前記の斷層との間に密集して、南に港に臨む。今海圖を開いて硫黃島附近の水深を調べて見ると百尋以下の淺海が硫黃島を中心としてE字形に連續して居る。其の三腕の内最北のものは東端に竹島があり、中央の腕のつけ根の北部には竹島ノソノセと稱する岩が水面上に頭を出して硫黃島の平家ノ城の臺地に續く。硫黃島を含む中央の腕にはシタギゾネ、アサシ瀬の二淺所があり、南部の腕の東端にはヤクロ瀬があつて、三つの淺い腕の東端は殆んど一直線をなす。而して竹島の上部に露はれて居る熔岩流は大抵北方に向つて傾斜し、又硫黃島の城之原の上部を被覆する厚さ

一丈内外の熔岩流は西方に向つて傾いて居るのを併せ考へると、この百尋線の示すE字の輪廓は舊噴火口の一部で、往時一大陥落が起り、硫黄島の斷崖を境界として、其の西部と竹島其の他を残して大部分は海面下に没し、其後稻村岳が噴出し、續て硫黄岳の噴出があつたのではなからうか。

寶島 の最高點ヒルガハ岳は北緯二九度八分三一秒東經一二九度一二分二一秒に位し、島の面積〇四一二方里ある。島形は三角形を成し、其の一邊は正北に面し、他の一邊は東に向つて居る。南西に向ふ一邊は最も長く殆んど一里ある。島の中心を成す山脈は此の長邊に並行して南東から北西に向つて走り、ヒルガハ岳は九五二呎あり、北西に一旦低まり再び崛起して女神山となり少しく北に折れて海に入る。此の山地を繞つて三度乃至五度の傾斜地がある。南西の海岸は五十尺内外の斷崖をなして居るが東及び北の兩海岸には砂地が連なり時としては砂丘を成す處がある。耕作地は主として此の緩斜地にあり、山腹は牛馬の牧場となつて居る。砂丘及び汀線附近の砂は珊瑚礁、貝殻の破片等が大部分を占め有孔虫の遺骸が之に混じつてゐる。砂濱に接して珊瑚礁が裾礁をなして島の周圍を繞つて居る。其の廣さ干潮時に於て一、二丁から十數間ある。概して西部及び北部に能く發達して南部に至るに従ひ狭く、南端荒木岬の附近で殊に狭い。所々海岸線と直角な方向に珊瑚礁中に割目がある。其の最大のもは前龍(マヘゴモリ)、大龍である。漁船の出入は全くこの割目を利用する。蓋し地下水が海岸に湧出する爲めに海水を薄めて珊

瑚礁の發育を不良にする爲めにこの大きな裂目が出來たのであらう。地質を一言すると、島の中軸を成す山脈は火山岩から成り之を貫通して石英脈がある。殊に北西端先が崎附近には厚さ約一尺の石英脈があつて銅鐵を胚胎し一時稼行されたことがある。又女神山の北方汀線附近の珊瑚礁の間に僅かに露出する岩石は水成岩なりやの疑がある、中央高地に接續する傾斜地は大抵隆起珊瑚礁によつて被はれ、部落の南方の山腹では三百尺内外の高處にも珊瑚礁がある。島の隆起作用は現時も繼續してゐることは、海岸にある珊瑚礁が漸次汀線以上に露出しゆくことから明かである。唯島の南端なる城の山と稱する岬附近では珊瑚礁は海水の來る所だけにあつて隆起を認めることが出來ない。隆起珊瑚礁の中には鍾乳洞があり其の最も大いのは部落の北西にあるのと、俗に觀音様と稱し南西海岸にあるものとである。又石灰岩を數箇所認めた。火山岩は分解して埴土を生じ、之に加ふるに珊瑚石灰の分解に際し特有の赤色埴土を残す爲めに、此の島の土質は海に接する部分を除いて一般に粘性に富み耕作に力を勞することが多い。然し保水力が強く天水のみで水田が耕作される。十島中で水田のあるのは本島と平島、中之島及び黒島の四島であるが、自給自足程度に米作をしてゐるのは本島ばかりである。

小寶島 は寶島の北東約六海里にあつて周二十六町ある。中央には高さ百米許りの鎌ノ平と云ふ小丘があつて其の頂は平坦で北東から南西に向つて漸次高さを減じ大岩屋と呼ぶ小丘に終つて居る。丘の周圍は殆ど水平な隆起珊瑚礁で被はれ

島民は其石片を除き猫額大の耕地を得て甘藷、粟、稷等を栽培する。この平坦な隆起珊瑚礁の間に安山岩の水蝕を受けた残骸が屹立して偉觀を呈するが時には非狀を成して明に海水が長年月此の平原を洗つた事實を物語つて居る。中央の小丘最高點に隆起珊瑚礁の層があつて一時は海面下にあつたことを證するが、之を以て全島が海水面以下に没して居たと斷定は出來ぬ。何故なれば周圍に残る岩石と中央高地の縁邊とを連れた線によつて考へると此島はもつと高かつた時代があつたように推測されるからである。人家は東に而して中央高地の斷崖下に建てられ十戸あるが、此を北東に距る約三丁に湯村と云ふ三戸の人家がある處がある。こゝは皆寄留者で大抵沖繩縣糸滿町の漁夫である。この附近には到る處溫泉又は硫氣を噴出して居る。最も著しいのは間歇的に熱湯と硫氣とを噴出するものである。楕圓形の噴出孔でゴトゴトと云ふ音と共に水蒸氣と少量の熱湯を噴出し、數時間經過して後一旦水と穴の中に吸ひ込み、次に一大音響と共に多量の熱湯を噴出するのである。この湯は平常洗濯用となつてゐるが、全島中唯一の飲料用と頼む井水が干乾の爲め缺乏する時はこの湯を冷して飲用とする。他の一は數年前不意に大噴出して附近の植物を枯死せしめた所で面積一反位は碧色を帯び鹽分濃厚な湯を湛へ下流は珊瑚礁の間に流れ込み影を没する。其の水は三月中旬に六八度であつた。小寶島の北東一里許に小島(コツマ)と稱する一小島がある。地形地質等小寶島に酷似し、中軸は火山岩で周圍には隆起珊瑚礁を繞らす琉球弧に於ける隆起珊

瑚礁分布の北限であらうと思はれる。アダン (*Pandanus tectorius Sol.*) も此一小島を北限とする。全島水の湧出する處なく從て住民がない。中央高地(高さ約五七米)は頂上全部カンザンチクを以て被られ、側面は蒲葵及各種の潤葉樹が繁茂する。小寶島の住民は主として薪炭の供給をこの小島に仰いで居る。(永井龜彦氏著「トカラハブとエラブリナギ」に據る)

## ○朝鮮の人口

昭和二年十二月三十一日現在の朝鮮現住

人口總數は千九百十三萬七千六百九十八人で、内地人四十五萬四千八百八十一人(總數千に對し二十四人)、朝鮮人千八百六十三萬四千四百九十四人(總數千に對し九百七十三人)、外國人五萬三千二百二十三人(總數千に對し三人)である。總密度は一方里千三百三十七人で、之を内地の二千四百十五人(大正十四年國勢調査)に比すれば、千七十八人少し、密度は南に密北に疎で、最も稠密なのは慶尙南道の二千四百六十七人最も疎なるは咸鏡北道の四百八十一人である。又内地人は京畿道に最も多く居住し其數十一萬千七百五十八人に達する。現住戸口職業別は農業、林業及牧畜業最も多く、總數百人に對し八十一人を占め、商業及交通業之に次ぎ七人を示してゐる。(朝鮮に據る)

## ○北支那の中生代以後の地史

G. B. パーブリア氏

の説述する所によれば次の如くである。中生代の變動に續いて行はれた侵蝕に依つて地表は准平原になつた。古第三紀層

の沈積は此の准平原面上の歪曲盆地にのみ限られて起つた。

これ以後北支那は海水で被はれたことではない。第三紀中期には變動と火山作用が發動して浸蝕は新しく替まつた。このウイリスに依つて最初認められた唐縣階には廣き谷に粘土と礫を堆積した。ヒツパリオン(ボンチアン階)動物群及他の鮮新世の脊椎動物によりて見ると草原の狀態であつたことを示す。鮮新世の終末に近づいて小さな地動があつて山地の作斜(グレーテッド)河川を堰き止めた。桑乾河盆地に於て最近バーア、リサン及テールハールは鮮新世及更新世兩様の豊富の哺乳類化石を發見した。此發見はザンスキーが北京に近い周口店で二個の人類の齒を發見したことに關聯して重要なことである。周口店には之と共に脊椎動物が出、其の數種は桑乾河の化石と同じらしいのである。この三門河湖階に次いで盆地を流れる河川が下刻を恢復した。この層序と似た順序が中部及南支那にもあつたことは既知のことである。然し未だ化石の證據がないので嚴密な對比は出來ぬ。鮮新世を通じて劇しく風化作用に働かれた蒙古平原は更新世中期に於て隆起し、其地表は烈風に晒され其の破碎された物質は支那の方にまで吹かれて來て揚子江に至るまで黄土となつて堆積した。

この蒙古境界の寒冷乾燥なる狀態は著しいものであつた。局部的に基底礫があることは濕潤な狀態が途中にあつたことを示して居、この時代が鄂爾多斯の舊石器時代(ムースチエリアン)の文化に屬するのである。黄土の標準化石は駝鳥の卵(Syrnoidolus)である。次いで乾燥期から又濕潤期になる

過渡の時代には風と河流とが土砂運搬と沈積の勢力となつて相闘つた。中亞探検隊によつて發見されたシヤバラツの砂丘住民のアジカアン文化はこの時期のものであらう。支那に於ける種々の新石器時代文化相の遺跡は必ず此の板橋階の急流成層より上に在る。この時期の續きは今日の氣候狀態になつたのである。今日の浸蝕は山地の曲上によつて勢を増された又黃海の海岸線に行はれつゝある主要な運動は今猶ほ地向斜沈降の性狀を有する様である。

### ○マダガスカル島事情

これを三地理區に分つ、一、中

央高原地方は土地の肥度は他よりも大に劣れるが如きも、氣候溫和にして生活しやすい、十一月より四月まで夏季には、海岸酷熱の折にも、海拔一千米乃至二千米の間にあれば溫帶と殊ならず、且この時雨期に入るを以て耕作に好都合なるのみならず、風土病も少きため、人口の密度他に比して大に増せり。首府タナナリヴはその中央の形勝地に當る。耕作物の主なるものは米にして中央高原の溪谷湖畔及海岸低地へかけ多くは水田となる、その面積百五九萬ヘクタール(百二十町歩)産額六十萬トンに達す。米につぐものはマニオック玉蜀黍等あり、養蠶の業又近時奨励せられて成績見るべきものあり二、東部及西北部地方は高温且濕潤にして、風土病多く不健康地とみなさるゝ低地は勿論高地と雖も地味肥沃なれば、熱帶植物の栽培に適し、珈琲、丁香、ヴァニラの如き香料を産す。就中丁香は品質良好にして其世界的本場ザンバルに勝ると稱せ

らる、ヴァニラは相場の變動甚しき不利ありされども其産額三百噸世界産出の約五割を占めたり。

この地帯に特筆すべきことは東岸のタマタヅ港を中心とする海岸約二百哩の地方は印度洋のサイクロン地域に屬し屢珊瑚以下建物等を全滅するの災あることこれ也。

(三) 西部地方は熱帶的なること東部と大差なしと雖も雨量少く、空氣乾燥するにより、豆、麻の如き作物をつくるに適すもし港船の設備をなさば米作其他の發達をみるべし、當地は一般に海岸に向つて緩斜し東部の如き急坂少く平野多しと雖も尙丘陵起伏して大平野なし、土人は盛に牧畜を行ふも、開墾は行はれず、乾燥期に牧草枯死するがために、牛の瘦せる缺點あり、本島西南の良港チュレアルを河口とせるチュレアル河の沿岸は一望の原野にして理想的の大農地たれども、今日にては未開の狀にあり。大戰に際し食糧の必要を痛感して以來、佛國政府の獎勵の下に土人は大に農牧にいそむこととなりて風氣大に作調となる。一九二一年以後土人に對し積極的生産指導の方針をとりつゝありといふ。

### ○日本とチュニスの通商

世界大戰中チュニスに對する從來の供給國は最早物質の需要に應ずる能はざるに至り日本之に代りて巨額の砂糖、米、靴類、乾物其他日常必需品を供給したり日本はこの他縫糸・黃麻製絲・眞田及布・大麻・綱及農具用繩・ゴム・藍・家具・木材等を供給しうべし、就中絹布・綿莫大小・建築木材・縫糸・綱索については見込多し、チュニスの

地下には鐵、鉛、亞鉛及滿倦を産し燐酸石灰の多量を有す、地中海西部を通過する日本貨物船の返り荷として見込あり、チュニスに帝國名譽領事館あり以上の點に關し日本輸出商の注意を喚起せざるを得ず。

### ○黑海岸に於けるトルコの諸港

(一) Ineboli イネボリは黑海岸の要港中最西に位する、Sinope の西七〇哩にあつて人口五千、軍事上の要地で一九二一、二年布土戰爭の時露國よりの輸入軍需品は此地から陸揚された、港灣は狭くて不良であるが、君府との間に毎週一度の定期船の連絡がある奥地から鶏卵や獸皮や林檎や羊毛、モヘヤなどが出る。

(二) Samson サムソン港は人口三萬三千、黑海岸にて土國最大の重要港である、氣候最良好で雨量相當し樹木も茂る新土國建設以來中學校、女學校、師範學校などが出來た、防波堤がないから秋冬の候棧橋への船寄に危險が伴ふ。大戰前には年々七百艘の船が寄港したが一九二六年上半年に三百六十隻の入船があつた、烟草を輸出の第一とする。卷烟草は有名であるつぎに鶏卵・阿片・獸皮・乾果・モヘヤ等を産出する、目下築港をジザブスカイザエへの鐵道四百五十基米の工事中である、この鐵道は黑海とアンゴラとを連絡する最初のものとして小亞細亞の最初のものであるから露土通商上重要視されてゐる、一九三〇年には竣工の豫定で、白耳義財團が着手してゐる。別にサムソンを中心として東西に通ずる海岸線が狹軌で

約百キロ出来てゐる、君府バツム間の外國船はいづれもこの港に寄港し君府との間に毎週一回の定期航路がある。この港は内地の灌溉工事と同時に着手されてゐる。將來は刮目されるべき港である。

(三) Kersund クラスンド港はトレビズンド縣に屬する小亞北海岸の港である、奥地カラ、ヒサル、シヤルキーから北方への出口で其間車道を通じ、人口一萬全部トルコ回教徒である。戦前人口二萬、希臘人やアルメニア人が多かつた、新興國はこれらの外人を追放した。港は紀元前第四世紀に出来たもので、此地半島の頂上三十米の岩壁上に希臘時代の城壁の廢墟がある。港灣狭少で碇泊の設備が不十分である。

(四) Tebizond トレビズンド港は黑海岸北緯四十一度(吾青森に當る)、にあつて、縣廳がある師範學校や中等學校がある、人口四萬、この外大戰前には一萬のアルメニア人希臘人も居住したが、これは全部國外に追放された、しかし波斯人やクルド人は今日でも相當に居る。氣候大陸的で、雨量は多いけれども、山地は略ハケ月間雪に封され、奥地の山は六月尙積雪がある。

東西交通の要所たるが故に紀元前四世紀、希臘と波斯とと戦つた時に、既に一萬人の希臘人がこゝに上陸した。第四十字軍(第十二世紀)の時ジョルシア女王タマラはこゝに希臘國家を建設せんと企てた。一四七三年回教徒カラマン侯の居住地となり土耳其領に歸し今日に及ぶ。しかし商權は戦前希臘人やアルメニア人の手にあつた。物産は、ナフタリン・マン

ガン・甘草・蘭・羊毛・獸皮・染料・烟草・榛實・鵝卵・加工品は絨氈・シヨール・絹毛織物・帽子・乾葡萄酒がある。蓋しこの地は古來波斯の對歐主要貿易路で、波斯への中繼港である、テヘランへは五百哩であるが駱駝の方が運賃がやすいので荷物がたえぬ、トレビズンド・タブリス間の自動車三日間を要し、且道路もわるいから、やはり今日でも駱駝や驢馬の便がよい。今日この地には英佛露獨瑞西・奧・波の領事館がある。露國のアルメニア鐵道完成の曉には更に發展するであらう、内地には開墾可能地が多い、農業方面でも見込が多いといふことである。穀類と烟草が觸目される。

蓋し土國は面積は我國の二倍であるのに其人口は我に比して四分一弱である、黑海岸の如き生活上の競争が少くして農牧時代に止まつてゐる、土國の全面積七億四千七百萬ドムネ(ドムネは一キロ平方)の内開墾地二九%、草原地三七%森林一八%、山地一四%、沼澤二%である。ことに海岸には草原なく木も茂つて榛實は各地の主要輸出品である、新興トルコは從來の希臘人などを追放して、自國人の手で戦前の狀態に回復せんことをつとめてゐる。日本よりこの地方へ三C印細粗布が輸入されてゐる。(下)

### ○露國ユーカサス石油の事情

同地の石油は西曆紀元一八七三年(明治六年)に始めて發見せられた、この地の産業の嚆矢はノーベル賞金創始で有名なアルフレッド・ノーベル、の長兄ロバート、ノーベルである。彼は一八七〇年頃商



用でこの地に來てバクーのアブシエロン半島に豊富なる油田あるを見て之を試掘し、遂に一八七六年に會社を創設した。同社は一九一七年ホルシエヴィツクが露國內の全産業を擧げて悉く社會化する迄は彼及び彼等の後繼者エマヌエル、ノールの手にあつた。この會社はその後大に發展完成して歐洲中にて第一流のポーツサンライト社又はクルツプ社に比肩される程に有力になつた。バツムとの間に輸送鐵管の敷設が出來たのは一九〇六年であつたが、ロシヤでは原油乾溜後の滓さへ汽船及汽車の唯一の燃料になるので、利益が多かつた。ことに石炭及水力に缺乏せる同國のことであるから、年をへて國內需要が發達し十九世紀末葉からはバクーの石油は世界の輸出が減じてすべて國內に供給されてゐた。其後に一九一三年以後殆ど一滴も海外に出なくなつた、同時にバクーの石油が露西亞全般に用ひられたわけでもなかつた、何となればバツムからレニングラートに送くる運賃は、到底米油の輸入運賃程やすく出來ぬからである。

コーカサス油田の開發について、國有の油田地は競賣され又は貸與せられたが其資本はノール兄弟(瑞典)が一部、英國及佛國(ロスタヤイルド)等から出た。一九一二年二月ロイヤルダツチ、シエル石油會社が、ロスタヤイルドと聯合した後は、この佛國のコーカサスに於ける石油會社は英國の會社に合併したのである。

英國は一九一〇年頃より大戰直前の年迄にバクー油田の北方にあるタイロプ(Malyop)グロズニー(Grozny)の二油田に

も手を出して、一時は非常に多量を出した、現今では裏海の北方にあるエムバ・ウラルスク Enba Uralsk 地方、及裏海東岸のチエレケン Tchekken 島の油田が多量だと稱せられてゐる。チエレケン島の西岸 Ali Teppe は豊富なる油田地である。然しこの油田は露國の革命に患せられて十分に開けないうが、將來有望である。茲に於てか英國がユーデニツクやデニキン、ソランゲル等の白軍を援助し以てバクー地方の石油地を手に入れんとしたのである。

露國の産油量は一九〇一年に、八五、〇〇〇、〇〇〇バレルであり、この時世界石油金額の五割五分を出しその覇王となつたが、爾後生産を減じ、一九一四年には世界石油全生産の二割となり、一九二二年には更に三分五厘二毛に減退したしかしその後同地の石油は多少恢復し、一九二三年には世界全生産額の三分八厘二毛、一九二四年には四分八厘五毛、になり最近三年間には猶世界第三位の産油國の位階にある。

世界市場に於て石油界の一方の旗頭は米國のスタンダードであるが、他方にロイヤルダツチシエル會社がある。一九〇一年以來經營宜を得佛のロスタヤイルドの助を得てよくスタンダードに當り、今日ば米國內にさへこの英國系の會社が有力に發展してゐる位である。そこでこの實力を背景として、ロイヤルダツチ社は、ソザイェスト露西亞が没落しなくとも結局個人の私有財産所有權を認むであらうと豫想して、大戰中に早くもコーカサス地方の露西亞の多くの石油會社を買収して、同地油田獨專獲得に邁進した。然るにスタンダード

はこの地の有力なノーベル會社と密接な關係を有し、大戰直後、ノーベル石油會社の油田所有權を得ることに腐心し之れ又一九〇二年之を買收した。

たゞしこの買收に先つて露國に於けるバグラー、グロスニール、エムバ及マイコフの油田に於ける大小百六十の石油會社はその所有せる石油田と之に附屬せる財産をホルシエヴィグによつて悉く沒收されてゐるのである。そこで列國がソヴィエツト政府を容易に承認しない理由も明になるのであるが、かうした變化のため一時ロシアの石油産出は激減したのである。

この問題はまだ露國と對外國との間に決着がついてゐないけれども、ソヴィエツト政府は自力で石油業を回復し徐々之を輸出するやうになつてゐる。何としても歐洲では一九二四年に六、六五三、〇〇〇バレルを産出した露西亞の如き石油國はないのであるから、石油資源に乏しい歐洲諸國の市場に近く、且その産出石油の品質優良である事からみても、世界の石油問題の上に重大な影響をもつのである。ローヤルダツチ及スタンダードの二大會社は何れもその油田の獨專に失敗したから、現今は第二の策として兩記石油會社は、ヨーロッパに於けるソヴィエト生産の石油を可成多量に購入せむことに努力して、百方秘術をつくすといふのが現状である。英米二國の石油戰の中に立つて、バグラーの石油の將來は實に刮目に値するのである。

### 質疑應答

問 南米に於ける石油産出の將來を伺ひたし 鳥取縣 生答 ヴェネズエラに於ける石油生産の激増は主としてラ、ローザ、ラグラニス油田といふ馬拉カイボ湖東岸の油田が發掘された結果である。礦區所有者が競争をするので、生産増加が著しく、しかもこの方面の生産能力の限界は未だ判明しないから、まだく生産するらしい。一九二七年上半年に二千七百七十萬バレル、本年は恐らく五千五百萬バレル以上になるかと觀測されてゐる。

この國の試掘を了してゐない廣大なる地域の地質條件が良好であるから、同國石油業は前途有望で、數年を出でずしてメキシコを凌駕し、將來世界第二の石油國は、ヴェネズエラがロシアかいつれか豫想がつかぬ位である。この國のメキシコよりも好都合なのは政治的の秩序が發達してゐる點である。メキシコでは一時情熱的投機的に探掘されたために、社會が悪化し、カリビアン海一流の海港になつたタンピコは既に凋落し始めてゐる程、線香花火的であつたが、ヴェネズエラは其地表下の所有權を政府に收めた故に、凡ての探掘が政府の許與せるコンセツションを基礎とする。政府も信用があり、財政狀況もわるくないから、コンセツションから無茶に税金を取りたてゝ、メキシコのやうに石油生産税が正確に豫測できぬといふやうなへまがない。もしコンセツション相互の競